

フォームへの回答が送信された時の処理を作成する

フローを作成するには、最初にどのような場合にフローが実行されるか設定します。この設定項目をトリガーといいます。今回扱う例（Formsの回答者をチームに登録する業務）では、Formsで回答が送信された時に実行されるフローを作成するので、トリガーはFormsで回答が送信された時、となります。Power Automateでは、それを「新しい応答が送信される時」といっています。前回の図2赤枠内をクリックするとそれがトリガーとして設定されます。今回はその後の操作を紹介します。

図1は前回の図2赤枠内をクリックした後の画面です。赤枠で囲まれているものがトリガーになります。このように、トリガーはブロックのような形で表現されます。フローを作成するには、まずトリガーの設定を行います。「新しい応答が送信される時」の場合、どのフォームから回答が送信された時に処理が開始されるのか設定します。赤枠内をクリックするとウィンドウ左側に設定画面（図2）が表示され、トリガーの設定を行うことができます。赤枠内をクリックすると、設定可能なフォームの一覧が表示されます。その中から対象のフォームをクリックします。

ここまでの作業で指定したフォームへの回答が送信された際に動作するフローとなりました。次に必要なことは、回答をフロー内で使用することができるようにすることです。それには、送信されたデータの詳細を取得するアクション「応答の詳細を取得する」を追加する必要があります。アクションとは処理のことで、Power Automateでは、トリガー同様ブロックのような形で画面上に表示されます。フォームへの回答を自動で処理するフローを作成する場合には、トリガー「新しい応答が送信される時」とアクション「応答の詳細を取得する」はセットで利用されることがほとんどです。

アクションを追加するには、トリガーやアクションの下にある⊕（図3）をクリックすると表示される「アクションの追加」（図4）をクリックし、対象のコネクタをクリックした後追加するアクションをクリックします。今回の例の場合、アクションの追加をクリックした後、Microsoft Forms（図5）をクリックし、「応答の詳細を取得する」（図6）をクリックします。そうすればアクション「応答の詳細を取得する」を追加できます。



図 1



図 2



図 3

図 4

アクションを追加すると、追加したアクションの上のアクションやトリガーとつながり、1つの処理の流れ(フロー)を作ることができます。自動化する業務をするフローをトリガーと複数のアクションをつなげて実現するのが Power Automate でやることです。

あるアクションを追加した後は、必ずやるべきことがあります。それは、アクション(処理)を実行するために必要な情報を設定することです。アクションをクリックすれば 図 7 のような設定画面がウィンドウ左側に表示されます。アクション「応答の詳細を取得する」の場合には、フォーム ID と応答 ID を設定します。フォーム ID にはトリガーで設定したものと同一フォーム ID を、応答 ID には、フォームから送信されたデータに自動で付けられた ID を設定します。応答 ID は、図 7 赤枠内をクリックし、枠の右側に表示されるカミナリのようなマーク(図 8)をクリックした後表示される「応答 ID」(図 9)をクリックすれば設定できます。

アクションの設定項目のうち、そのアクションより前のアクションで得られた情報を使用する場合、今回と同様にカミナリのようなマークをクリックして表示される一覧の中からクリックすることでそれを使用できます。

切りのいいところまで説明したため、前回までより1ページ多くなってしまいましたが、今回はここまでしておきます。次回続きを作成していくため、フローに名前を付けて保存しておきます。現在、名前は仮に「無題」となっています。それを分かりやすい名前に変更しておきます。今回は「回答送信者をチームメンバーに登録する」としておきます。無題(図 10 赤枠内)をクリックし、「回答送信者をチームメンバーに登録する」と入力した後、「保存」(図 10 緑枠)をクリックします。これで保存できました。もう Web ブラウザを閉じて大丈夫です。

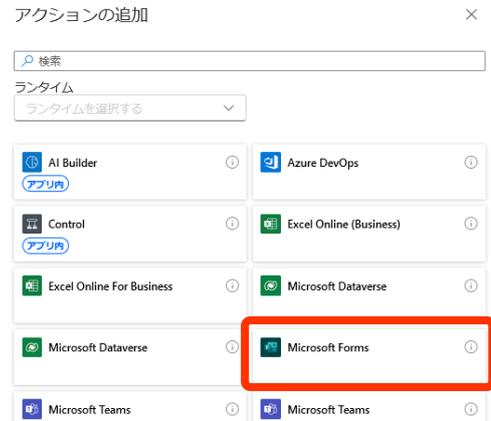


図 5

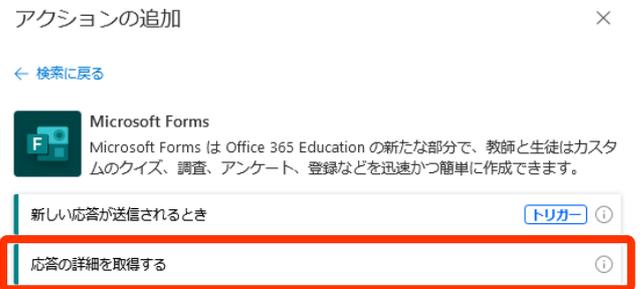


図 6



図 7



図 8

図 9

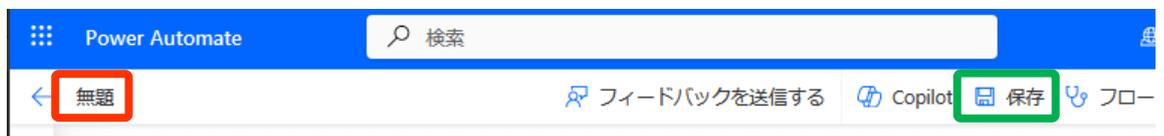


図 10